氏　　名	ゴミ　ツグオ **五味　嗣夫**
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	博第1076号
学位授与の日付	平成29年3月23日
学位授与の条件	学位規則第４条第１項該当　課程博士
学位論文題目	産業活性化と地域システム　－諏訪地域の産業分析－ (Industrial Revitalization and Regional System - Industry in Suwa District -)
論文審査委員	主 査　　教授　　小竹　暢隆 教授　　中出　康一 准教授　　徳丸　宜穂

論文内容の要旨

本研究は，活力を失っている日本の中小製造企業の集積する産業地域が，どのようにして再び活力を取り戻すことができるかについて明らかにしようとするものであり，併せて地域システムのあり方について考察する。本研究では，.ゼロからの産業新興，「シルクのメッカ」としての躍進，その後の急落，産業構造転換，「東洋のスイス」としての発展，を経験し，しかるに現在は停滞の域にある長野県諏訪地域の産業を研究対象とした。

本研究は，地域中小企業の企業家が企業家精神を発揮することが重要であり，それが個別企業におけるイノベーション頻発の土台となり，また地域に波及効果をもたらし，地域産業発展の契機となること，そして，地域先人企業家の旺盛な企業家精神と，現代のイノベーティブな地域企業の事例に学ぶ組織学習を実践する地域システムが形成されれば，地域産業活性化は可能であることを示す。

本論文の構成は，本研究の枠組みを示す序章に引き続き，第１章から第５章の本論と終章とからなる。第１章では，本研究を進めるにあたり，その背景となる，あるいは依拠する先行研究・文献のレビューを行う。産業集積に関連した諸理論は，経済学から経営学，ネットワーク論，中小企業論など広範にわたり，極めて学際的な領域である。これらと併せて，中小企業のイノベーションや企業文化の創造などについてもレビューする。

第２章では，諏訪地域の産業の実態を調査し、現代の諏訪地域の産業の課題を明らかにする。実態調査としては，経済的指標やものづくり能力・ポテンシャルに関する調査，産業地域の具備すべき要件からみた調査，地域中小企業の実態調査，の 3 つを実施する。それらの調査から得られた課題を踏まえ，地域産業活性化を促進するための着眼点を，経済成長モデルを導入して整理する。このモデルによれば，新しい事業の創造（起業）への「動機づけ」と企業の成長を促す「イノベーションの頻発」が重要な役割を担っている。以上から，地域産業活性化を促進する方法についての以降の検討を，地域全体（マクロ）課題と個別企業（ミクロ）課題の二つに分けて進めるよう整理した。

第３章では，地域全体（マクロ）課題の検討を行う。集団活動を進めようとした際に「競争と協調の両立が実現できない」ことが障害となる，という課題について，その原因は何か，両立化は不可能なのか，の問いを立て，地域先人企業家の歩みを辿る事例研究を行った。その結果，地域産業を発展させた先人企業家は競争と協調を両立させており，その背景には確固たる経営理念（企業家精神の発揮）の存在が認められた。そこで，企業文化が業績に強い影響を与え，企業文化の形成に経営理念が決定的な役割を果たすという先行研究をもとに，地域中小企業における経営理念の明示状況を分析した。

第４章では，個別企業（ミクロ）課題の検討を行う。地域中小企業の多くが自立化を果たせずにいる中にあって，すでに自立化を果たした企業（これをイノベーティブな企業と呼ぶ）やチーム活動が効果的に行えている企業ネットワークも現れてきている。そこで，これらのイノベーティブな企業やチーム活動の取組みについての事例研究を行った。これらの事例では，企業家の強い意識改革を契機に「顧客（マーケティング）志向に立って顧客を見つけ出し，顧客価値を高めるイノベーションを実施する」という活動が行われていたこと，特にチーム活動の円滑な推進にはナレッジ移転が重要であることが認められた。

第５章では，地域全体（マクロ）課題の検討（第３章）と，個別企業（ミクロ）課題の検討（第４章）の二つに分けて行ってきた分析結果を踏まえ，地域産業活性化を促進する要因と地域システムのあり方についての考察を行う。事例研究に取りあげた企業やチーム活動の取組みは，地域の他企業に対して刺激を与えるとともに，地域システムとして地域全体の産業活性化にも貢献することが期待されることから，未だ自立化が果たせずにいる企業に対して，そしてチーム活動を効果的に推進していくために，地域先人企業家の旺盛な企業家精神と，現代のイノベーティブな地域企業の取組みに学ぶ二つの組織学習を導入した地域システムを提案し，その意義について述べる。

終章では，第５章の考察をもとに，本研究の結論ならびに本研究により得られた知見について述べる。また，本研究の含意として，地域産業活性化を促進する論理の全体像を示した。これは地域システムの移植方法を示唆し，行政や大学，経済団体等の間接機関の支援により政策展開を進める際の指針となり得るものであり，実社会への実践を可能とする。

論文審査結果の要旨

本研究は，活力を失っている日本の中小製造企業の集積する産業地域が，どのようにして再び活力を取り戻すことができるかについて明らかにしようとするものであり，併せて地域システムのあり方について考察したものである。地域中小企業の企業家が企業家精神を発揮することが重要であり，それが個別企業におけるイノベーション頻発の土台となり，また地域に波及効果をもたらし，地域産業発展の契機となること，そして，地域先人企業家の旺盛な企業家精神と，現代のイノベーティブな地域企業の事例に学ぶ組織学習を実践する地域システムが形成されれば，地域産業活性化は可能であることを示している。

本論文の構成は，本研究の目的や研究の枠組みを示す序章に引き続き，第１章から第５章の本論と終章とからなる。

第１章では，本研究を進めるにあたり，その背景となる，あるいは依拠する先行研究・文献のレビューを行っている。

第２章では，諏訪地域の産業の実態を調査し、現代の諏訪地域の産業の課題を明らかにする。実態調査としては，経済的指標やものづくり能力・ポテンシャルに関する調査，産業地域の具備すべき要件からみた調査，地域中小企業の実態調査，の３つを実施する。それらの調査から得られた課題を踏まえ，地域産業活性化を促進するための着眼点を，経済成長モデルを導入して整理する。このモデルによれば，新しい事業の創造（起業）への「動機づけ」と企業の成長を促す「イノベーションの頻発」が重要な役割を担っている。

以上から，地域産業活性化を促進する方法についての以降の検討を，地域全体（マクロ）課題と個別企業（ミクロ）課題の二つに分けて進めるよう整理している。

第３章では，地域全体（マクロ）課題の検討を行う。第２章で明らかとなった，集団活動を進めようとした際に「競争と協調の両立が実現できない」ことが障害となる，という課題について，その原因は何か，両立化は不可能なのか，の問いを立て，地域先人企業家の歩みを辿る事例研究を行った。その結果，地域産業を発展させた先人企業家は競争と協調を両立させており，その背景には確固たる経営理念（企業家精神の発揮）の存在が認められた。そこで，企業文化が業績に強い影響を与え，企業文化の形成には経営理念が決定的な役割を果たすという先行研究をもとに，地域中小企業における経営理念の明示状況を分析している。

第４章では，個別企業（ミクロ）課題の検討を行う。地域中小企業の多くが自立化を果たせずにいる中にあって，すでに自立化を果たした企業（これをイノベーティブな企業と呼ぶ）やチーム活動が効果的に行えている企業ネットワークも現れてきている。そこで，これらのイノベーティブな企業やチーム活動の取組みについての事例研究を行った。これらの事例では，企業家の強い意識改革を契機に「顧客（マーケティング）志向に立って顧客を見つけ出し，顧客価値を高めるイノベーションを実施する」という活動が行われていたこと，特にチーム活動の円滑な推進にはナレッジ移転が重要であることが認められた。

第５章では，地域全体（マクロ）課題の検討（第３章）と，個別企業（ミクロ）課題の検討（第４章）の二つに分けて行ってきた分析結果を踏まえ，地域産業活性化を促進する要因と地域システムのあり方についての考察を行っている。　終章では，第５章の考察をもとに，本研究の結論ならびに本研究により得られた知見について述べる。また，本研究の含意（インプリケーション）として，地域産業活性化を促進する論理の全体像を示した。これは地域システムの移植方法を示唆し，行政や大学，また地域経済諸団体などの機関による間接支援によって政策展開へと進めていく際の指針となり得るものであり，実社会への実践を可能としている。

これらの研究成果は，３編の著書(章)，２編の国内学会誌論文，１編の国際会議論文（いずれも査読あり）として発表され，大変実効性の高い提言をしていると評価できる。

よって，本論文は博士（工学）の学位論文として十分価値があると認められる。